

9月例会（9月19日）ブックレビューとブックレポートと朗読

ともすると勘違いしやすいブックレビューとブックレポートに焦点を当てたプログラムでした。ブックレビューとブックレポートの違いの教育の後、夏休み中に会員全員に読んできてもらった、本屋大賞1位に輝いた三浦しをん著「舟を編む」を使って、ブックレビューとブックレポートを行いました。全員が同じ本を読んでいるので、微妙な違いもわかりやすくその後、其々が気に入った部分の朗読や、感想を用意してきていただいたものを、発表しました。今期会長のテーマのごとく、十色のキャラを光らせる楽しいプログラムになりました。最後の、クロージングソートも、本の中からの朗読で行い今期最初の例会を終えました。

10月例会（10月17日）リサーチ 日本の美の心と技

奥村土牛、野々村仁清そして明治の工芸を取り上げ、3名の方が創意工夫を凝らしたパワーポイントを使ってのリサーチでした。目から、耳からの情報を受け取り、日本の美の心と技を十分に満喫できる例会となりました。残った時間を利用しトピックスも行いました。日本画家の描いた情景や、心情を読み上げこれも、パワーポイントに映し出された数枚の絵の中からどの絵が画家の心情や、情景に当たるかを推察するゲームです。少人数クラブにとって、パワーポイントはとても強い味方です。

11月例会(11月21日) 持ち出し例会 愛知県美術館

栄クラブでは、人数が少ない分 足並みがそろいやすく この数年野外例会の他 年に1度持ち出し例会を企画することがあります。

今回は、県美術館で開催されています「ラウル・デュフィ展」を プログラムの場所に選びました。

ビジネスを終え 美味しいフランス料理の昼食、そして美術に親しむ。いつもとは一味違う例会で 懇親を深めました。

美術館では、各自がイヤホンガイドを手に 其々が自分の好きな絵興味のある彫刻の前で 立ち止まる姿が印象的でした。

12月例会（12月19日）ワークショップ「裂ってなに？」

袋物師・後藤絹代（錦クラブ）さんを 講師にお迎えして「名物裂」のお話、実物見本をお持ちいただき名前由来の由来、そしてご自身でお作りになられたお仕覆、袋物、袱紗などを会場に展示していただき 日本の美を身近に感じる例会でした。

今月は、30名ものゲストにお越しいただき、後藤さん ご指導の下 小袱紗を作るワークショップも行いました。袱紗を使った お正月やXマスの設えのアイディア、日常生活の中でも袱紗を上手く利用した設えなどのコツも教えていただきました。

ご自身でつくられた小袱紗を、皆様 どんな形で お役にたてられたのでしょうか？

1月例会（1月16日）リサーチ「椿 物言わす！」

「利休にたずねよ」の1場面を含め 椿を 多方面から、また 花、葉、種の用途を ともにパワーポイントを使ってリサーチを行いました。その後、写真から閃いた「情景・感想」などを、各自5文字または7文字の言葉で表現し これを短冊に書き その短冊の言葉を各テーブルで話し合っ言葉をつなぎ詩を詠む言葉遊びを行いました。

お正月例会らしく、繁栄、吉祥、長寿の花として愛されてきた椿を取り上げることで、栄クラブの繁栄と会員の長寿を祈って、各テーブルで出来た詩を楽しみながら椿のお饅頭をいただき閉会となりました。

雪の中 こぼれおちるや あざやかに （Aテーブル）

白椿 枝のびやかに りんとして （Bテーブル）

東大寺 2月堂への 一人旅（ゲスト 長瀬真喜子）

3月例会（3月20日） 「議事法をはじめから」

錦クラブ 片桐寛子さんを講師にお迎えして アジェンダに沿って基本から議事法を 勉強しなおしました。

わかっていたつもりでも、勘違い、思い違い、そして知らなかったルール。片桐講師のふんわりと優しい問いかけに、会員からの矢継ぎ早の質問攻めであつという間に80分が過ぎてしまいました。

ともすれば敬遠しがちな議事法が、ITCのコミュニケーションの潤滑油になっていることを実感できるプログラムでした。

4月例会(4月17日) 「プレゼンテーション」

今月は、沢山の大切な議事がありビジネスに時間を必要といたしました。幸い先月議事法の勉強をした事が功を奏して議事進行はスムーズでした。プログラムの時間はやや短くなりましたが「日本のこころ・桜の花」「幼児教育」「漆器の珈琲カップ」のテーマで3人のプレゼンターが其々の個性を發揮したプレゼンテーションを行いました。事前に配布されていた「プレゼンの基本」を各自で把握され、結論を先に相手に告げ理解する心の準備をしてもらい、興味を引き出すためには疑問を投げかける、といった点はどの方も実践して充実したプログラムになりました。

5月例会(5月15日) 野外例会 奥の細道むすびの地記念館

5月野外例会は、江戸紀行文学の最高傑作と称される、松尾芭蕉の「奥の細道」むすびの地である大垣を訪ねました。当時の大垣は、川運、陸運が交わる東西交通の要所として発展し、芭蕉に心を寄せる俳人たちの出身地でもありました。

「奥の細道むすびの地記念館」の「芭蕉館」にて学芸員大木氏が楽しく、クイズなども交え奥の細道の解説をはじめ 松尾芭蕉の人となりや旅に生きた人生の紹介をして下しました。紀行文とは言えある程度の創作が加えられていること、芭蕉の文字が歳とともに変化していることからの考察などの説明を受け、今一度大木氏の説明を頭に置き「奥の細道」を読み直したくなりました。

6月例会(6月19日) インスタレーション 心を繋ぐおもてなし

今期は場所を名古屋市東山荘に移して、第33期役員退任式及び第34期役員就任式を行いました。インスタレーションのテーマ「緑陰」にふさわしい 自然林を生かして造られた庭園を眺めながらの役員交代式、その後 茶室に移りお茶事の流れの中でおもてなしの心を学びました。「亭主は客を貴賤の別なく、あたかも名人のごとくもてなすべきべきであるとし、客はまた一生に一度の思いで亭主の心入れにこたえるべきである。」この一期一会のころ、ITCに是非生かしたいものです。今期最後の例会が来期の会員増に繋がるよう祈ります。

33期 岡田道子

5月例会 野外例会「奥の細道むすびの地記念館」

お知らせ

★6月例会(6月19日) インスタレーション 心を繋ぐおもてなし

今期のテーマ言葉で楽しんで学んで そして美意識のもと、今期最後のプログラムは心を繋ぐおもてなしといたしました。

おもてなしの原点は、茶の湯にあると言われていて、その中の茶事にそって流を学び、そして茶事の最後の薄茶を皆様に体験していただきます。 そのなかで皆様おひとりおひとりが、おもてなしの心についてどのように感じられ、美を意識していただけますでしょうか。